JAはだの

発行
秦野市
農業協同組合
（神奈川県）
〒257-0015
秦野市平沢477
電話 0463(81)7711㈹
発行責任者 小島 敏雄
印刷所 ㈱JA情報サービス

感染症対策のため、今月はポスト投函で配布します。一部の地区で訪問日程を変更する場合があります。

ひと工夫で甘～いカボチャに

シャッターチャンス

じばさんずで、地場産のカボチャが来店者から人気を集めている。生産者の一人、堀西の三武利夫さんは、15アールの畑で「九重栗」「くりゆたか」など4品種を栽培し、1200個を収穫した。収穫後は、扇風機で風を当てながら約10日間保管。乾燥させることで日持ちするカボチャに仕上げ、追熟させてさらに甘味が出るように工夫している。

三武さんは「おいしいと思ってもらえることを一番に考えながら、収穫のタイミングや保管期間を調整している。多くの人に食べてほしい」と話した。

三武さんの作業場に並ぶカボチャ

今月の特集
4～5面

新東名開通で観光農園盛況

新東名が開通し、市内で観光農業がにぎわっている。収穫体験や花畑など、市民や市外から訪れた人に秦野の農業をPRする取り組みが充実している。

フルーツまつり開催
8月12～28日

秦野市園芸協会が「フルーツまつり」を実施します。じばさんずで購入して応募用紙を投函した方の中から抽選で、梨やブドウをプレゼント。

梨やブドウを抽選でプレゼント

市内の生産者が丹精して育てたフルーツをぜひ味わってみてください。

◎応募期間　8月12日（金）～28日（日）

◎内容　梨・ブドウに入っている保証書・生産者票とレシートを専用の応募用紙に添付し、じばさんず店内の応募箱に投函するか、郵送してください（8月28日必着）。

お問い合わせは、はだの都市農業支援センターまで。☎81－7800

メール情報配信サービス
資材価格の変更もお知らせ

JAはだのは、Eメールで情報配信サービスを行っています。資材や鉱油の価格変更、台風接近時の営農情報など、さまざまな情報を発信しています。

QRコードを読み取って空メールを送り、返信されたメールから登録フォームに接続できます。

お問い合わせは組織教育課まで。☎81－7714

第100回国際協同組合デー
「役割」を再確認
窓口で野菜セット配布も

JAはだのは毎年、7月第1土曜日の国際協同組合デーに合わせて、地域住民らに協同組合の意義を伝えている。1日には、第100回を迎えた国際協同組合デーの記念行事を開催。全支所・支店の窓口で利用者に地場産野菜を配った他、研修会で役職員に意識付けをして、地域に根差した協同組合運動を一層進めた。

役職員研修会で協同組合の意義を学習

JAは、2000年から国際協同組合デーに合わせた取り組みを継続している。今年は、地場産のニンジンやタマネギなどを入れた野菜のセット合計450袋を窓口で配布。国際協同組合デーを紹介しながら、利用者に手渡した。

役職員研修会は（一社）日本協同組合連携機構の前田健喜氏が「協同組合のアイデンティティ（定義・価値・原則）と協同組合間連携」と題して講演。県森林組合連合会や生活協同組合の役職員も出席し、協同組合が果たすべき役割を学んだ。

宮永均組合長は「協同組合が連携し、理念を地域に広めていく必要がある。協同組合が一層発展するように、引き続き事業活動に取り組んでいく」と力を込めた。

和紅茶の手もみ挑戦
茶農家が協力 作り方学ぶ

JAはだのは2日、菩提の高梨茶園で「ちゃぐりんスクール」を開いた。市の特産品の一つである茶への理解を深めてもらおうと、同園の高梨晃さんの協力で開催。市内の小学4～6年生21人が、茶の製造工場の見学と、和紅茶の手もみに挑戦した。

高梨さんが、自宅敷地内にある茶の製造工場を案内。摘み取った茶葉が製茶になるまでの過程を、工場内の機械を紹介しながら説明した。

和紅茶の手もみに挑戦

児童は、紅茶の手もみを体験。事前に用意された茶葉を丁寧にもんで発酵させた。「フルーツみたいな香りがする」「もんだら感触が変わってきた」と歓声が上がった。

高梨さんは「児童の反応がじかに見られて良かった。体験をきっかけに、秦野のお茶に関心を持ってもらえれば」と笑顔を見せた。

文中の表彰などの人名紹介の際の敬称は省略させていただきます。

状態見極め管理しっかり

梨部　摘果や新梢誘引学ぶ

生育状況を確認する部員ら

果樹部会梨部は6月27日、鶴巻の果樹園で夏期管理講習会を開いた。栽培技術と品質の向上、収量の安定化が目的。部員7人が、摘果や新梢（しんしょう）誘引、病害虫防除のポイントを学んだ。

病害虫の対応策を共有

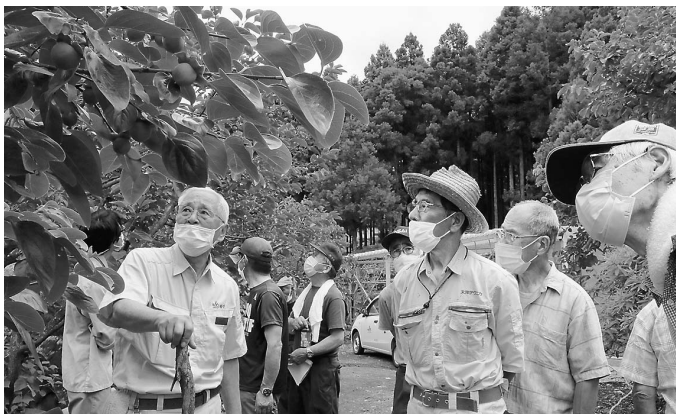
県農業技術センター職員が、高品質な果実生産につなげるために必要な仕上げ摘果を解説。最終着果量の目安や、裂果した果実の取り扱い方法を伝えた。

翌年の花芽を確保するための新梢誘引についても指導。誘引の角度を伝え、花芽分化が始まる前に早めに実施するよう呼びかけた。その後、ナシ黒星病の耐性菌や対策方法などの最新情報を共有した。

谷井保夫部長は「病害虫への対応方法をはじめ、今回の講習で状態をよく観察することの重要性を再認識する事ができた。今年はこれまでにない気象条件なので、いつも以上にしっかり管理していきたい」と意気込みを話した。

早い時期に摘果を

柿研究会が夏管理講習会


摘果のポイントを確認

大玉の果実を目指す

柿研究会は7日、菩提の会員の園で夏管理講習会を開いた。大玉で糖度の高い柿を生産することが目的。会員11人が、県農業技術センター職員とＪＡ園芸技術顧問から、摘果や病害虫防除などの管理方法を学んだ。

センター職員が「富有」「太秋」など甘柿の品種ごとの着果量の目安を解説。木に貯蔵されている養分を、果実の肥大や翌年の花芽の確保に効率良く利用するため、なるべく早い時期に摘果することを呼びかけた。その後、園芸技術顧問が「甲州百目」など渋柿の管理方法を解説した。

須藤忠三会長は「秋の収穫に向けてきっちりと管理を進めていく。会員同士で情報を交わしながら、品質の良い柿を生産したい」と意気込む。

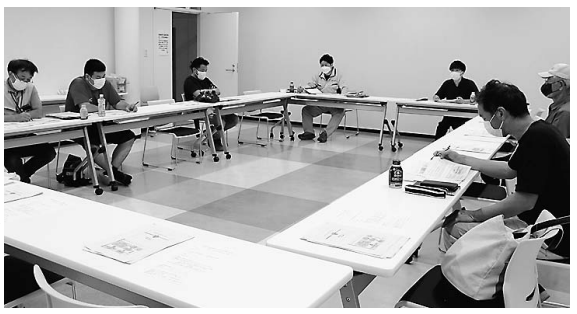
花や苗の基礎を確認

鉢物部が良質生産へ講習会

花き部会鉢物部は6月23日、本町支所で講習会を開いた。栽培の基礎を再確認し、良質な花の生産につなげることが目的。部員7人が参加した。

県農業技術センター職員が、土壌・農薬・病害虫防除の三つのテーマで講義。鉢物や苗物の用土は保水性や通気性が重要となることや、展着剤の使用方法などを解説した。さらに、ＬＥＤ防虫灯を使ったアザミウマの拡散防止について、実証実験の結果を提示しながら説明した。

相原一之部長は「コロナ禍で部の活動ができていなかったので、土壌や農薬など必要な内容を皆で集まって学べて良かった。今後も部員相互の交流を大切に、連携を強めていきたい」と話した。


鉢物の管理をテーマごとに学んだ講習会

品質向上とコスト抑制
経営改善へ取り組み

茶業部が研修会

茶業の経営改善へ意見を交わす部員ら

果樹部会茶業部は7日、本所で茶業経営分析研修会を開いた。コロナ禍で、主な出荷先である㈱神奈川県農協茶業センターへの販売価格が低迷する中、経営改善への取り組みを強化することが目的。部員7人が、品質をさらに向上させる方法や、生産コストの抑制手段などを検討した。

部員は、県農業技術センターの職員を講師に、経営改善の方向性を検討した。損益分岐点の考え方を基に、コストと品質のバランスを確認。評価点は高いがコストをかけ過ぎている場合には、園の状況によって施肥量や肥料銘柄を見直すなど、品質に支障のない範囲で低コスト化することを検討した。評価点が低く赤字になっている場合には、夏や秋の整枝作業で充実した葉層を確保し、適切な施肥で品質向上を狙うことを確認した。

高梨福太郎部長は「適期摘採を基本に品質を向上させて、以前と同等の価格が付くように対策していきたい。市内の茶生産を守るためにも改善を進めていく」と力を込める。

受賞おめでとう！

日頃の成果を発揮

果樹部会ぶどう部は14日、市内圃場（ほじょう）で小粒種立毛共進会を開いた。審査の結果は次の通り。

▽優秀賞＝栗原一郎（平沢）▽優良賞＝栗原孝夫（平沢）井上能伸（落合）▽佳良賞＝山口新次（堀西）栗原淳作（渋沢）谷井保夫（堀山下）

ＪＡグリーンは農家を応援します

秋野菜作りにぴったり
肥料・農薬を特別価格に

ＪＡグリーンはだのは８月２日（火）～10日（水）、秋野菜作りにぴったりの肥料や農薬などを特別価格で販売します。お得なこの機会にぜひご利用ください。

お問い合わせはＪＡグリーンはだのまで。☎81―7719

特別価格で販売する肥料

野菜

太陽熱利用土壌消毒のポイント

太陽熱利用土壌消毒は、盛夏期に太陽の熱を利用して、ビニール被覆により土壌を45度以上に温め、土壌中の病原菌や害虫類、雑草種子などを死滅させる方法です。化学農薬を使用しない環境保全型の防除技術で、使用済みの古いビニールなどを再利用すれば、コストが安くなります。特に、比較的狭い畑や苗床などには、お薦めの消毒方法です。

処理適期は、梅雨明け後から9月上旬までで、処理手順は次の通りです。

①有機質資材（堆肥など）と土壌改良資材（苦土石灰など）を施用した上で、元肥を施肥してよく混和します。必要に応じて畝立てをするなど、消毒終了後すぐに播種（はしゅ）や定植ができる状態にしておきます。畝立てをした方が、地温は上がりやすく効果が高まります。

②畝間に水をまき、土に十分水を含ませます。水は、熱の媒体として地温上昇と蓄熱に重要な働きをします。また、病原菌は乾燥状態では熱に強いのですが、湿潤状態では熱に弱くなります。

③畝の全面をビニールまたは透明マルチで隙間なく覆い、風などではがされないよう、しっかりと固定します。

④処理期間は20日以上とします。晴天が続き、地温が高い期間が長くなるほど防除効果が高くなります。

▼注意事項

地温は、地中深くなるほど上がりにくくなります。そのため、太陽熱消毒の効果が期待できるのは、深さ20㌢程度までと考えてください。また、処理後に耕起すると、深いところにあった雑草種子や病原菌を含む土が表面に出て、被害が発生する場合があります。ビニールなどの被覆は、播種や定植の直前に除去し、消毒処理後はなるべく土を動かさないように注意して、播種や定植作業を行うようにしてください。（草野）

営農技術ヒント・ポイント

かながわ鳥獣被害対策支援センター　0463-22-9521（朝原・矢野・島田）

農業技術センター　普及指導部　0463-58-0333

- 果樹花き課　果樹（笹屋）　花き（青木）
- 作物加工課　作物（木村）　加工（中山）
- 野菜課（草野）

鶴岡八幡宮を訪れた部員

2年ぶりの企画旅行を堪能

体験して・見て・交流して

女性部は1日、企画旅行で鎌倉市などを訪れた。新型コロナウイルス感染症の影響で2020年から中止していたが、多くの部員からの要望を受けて再開。95人が参加し、2年ぶりの企画旅行を堪能した。

感染症対策も徹底

企画旅行は、部員同士の親睦を深めようと開催している人気の恒例行事。これまでは国内だけでなく、シンガポールやマレーシアなど、海外も訪れてきた。今年は感染症対策を徹底しながら、県内での日帰り旅行を催行した。

部員は、JAよこすか葉山農産物直売所「すかなごっそ」を視察。店内に陳列された農産物や加工品、店内広告（POP）などを見て回った。その後「長井海の手公園　ソレイユの丘」へ移動し、ピザ作りを体験した。

鎌倉市では、鶴岡八幡宮を参拝。敷地内の「鎌倉殿の13人　大河ドラマ館」も訪れ、撮影時に使用された衣装や小道具、撮影セットを細かく再現したジオラマなどを見学した。

ボルケットで熱戦展開

30年間の大会に幕閉じる

女性部は5日、メタックス体育館はだので球技大会（ボルケットボールの部）を開いた。部員の健康増進と相互の親睦を深めることが目的。51人の部員が参加し、今年が最後となる大会を盛り上げた。

球技大会は、JAが毎年7、8月に取り組んでいる「健康福祉充実月間」の行事の一つとして1992年から開催。これまでは支部ごとのチームに分かれて試合を行い、優勝したチームは県内の5JAとのボルケットボール親睦会に出場してきた。多くの部員から人気の行事だったが、使用するボールの製造が終了することから、今年で幕を閉じることを決めた。

部員は、6月20、27の両日に市立東中学校の体育館で練習するなど、大会に向けて準備を進めてきた。当日は「やえのちゃんブロック」と「ぴーなマンブロック」に分かれ、それぞれ7、8人の3チームが試合。チーム内で声をかけ合いながら相手のコートにボールを打ち出し、熱戦を繰り広げた。

参加した部員は「体を動かしながらみんなと交流し、楽しいひとときを過ごせた」と感想を話した。

熱戦を繰り広げた球技大会

大豆作り人気集まる

自給率向上願い13年　食と農の大切さ体感

女性部が取り組む「自給率向上！大豆プロジェクト」が部員から人気を集めている。大豆の栽培から収穫、加工までを体験するもので、新たに参加する部員が年々増加。食と農の大切さを体感できる活動の一つとして定着している。

プロジェクトは、大豆の国内自給率の低さを知った部員の発案で2010年から始まり、今年で13回目。農作業体験ができるとともに、部員同士の仲間づくりにもつながっている。

6月30日には、上大槻の畑で今年度初の活動となる種まきをした。部員は約20㎡の畑に協力して溝を作り、大豆「津久井在来」の種5キロを30センチ間隔でまいて土を被せた。今後は7、8月に草取りと土寄せ、11月に刈り取りと脱粒を行い、12月からはみそに加工する予定だ。

初めて参加した上支部の井村要子さんは「みそが好きなので、種まきから加工まで携われてうれしい。今後の作業を楽しみにしている」と笑顔で話した。

等間隔に大豆をまく部員

支部だより

大根支所

健康講話

大根支部は13日、大根支所で健康講話を行った。部員15人が参加した。

講話は、相模原協同病院の職員が「インフルエンザ・ノロウイルスから自分を守る〝手洗いのコツ〟」と題して行った。講師は、インフルエンザとノロウイルスの症状や感染経路を説明。ノロウイルスはアルコール消毒で死滅しないため、小まめな手洗いが重要であることも伝えた。

部員は、予防に効果的な手洗い方法を実践。講師に教わりながら、せっけんで洗い残しがないようにまんべんなく洗い、水で流した後は手を乾燥させることなどのポイントを学んだ。

手洗い方法について学習

西支部

女性部バザー

西支部は6月23日、西支所の旧直売所でバザーを行った。女性部が農業まつりで開催していたバザーを、同支部でも挑戦してみようと企画した。

部員は、当日に向けてチラシを作成し、地域の掲示板や店舗に貼った他、同支所のかわら版「ニシノカワラバン」で告知して地域に広く開催を知らせてきた。

出品物は、各家庭から持ち寄った日用品や食料品、野菜など約700点。同支部の手芸グループが製作した作品も出品した。収益金は、支部活動費として活用していく予定だ。

多くの人が訪れたバザー

北支部

はだのクリーンセンター視察

北支部は21日、曽屋のごみ焼却施設「はだのクリーンセンター」を視察した。部員ら11人が、ごみ処理の仕組みや設備について学んだ。

部員は、センター職員の説明を聞きながら、ごみの処理施設を見て回った。運び込まれたごみをクレーンでかきまぜる行程を見学した他、有害ガスが排出されないように850度以上の高温で燃やしていることなどの説明を受けた。その他、ごみ焼却時の熱エネルギーが、隣接する温泉施設「名水はだの富士見の湯」での加温に活用されていることを学んだ。

ごみの焼却処理の説明を聞く部員ら

いきいき女性部活動

カルチャークラブ「学会」

代表　合田（ごうだ）　久美子（くみこ）さん

私たちは、会員8人のグループです。メンバーは高齢なので、互助の精神で一緒に活動しています。主に着付けの講習や写経、塗り絵、料理をしています。6月には秦野市役所で議会の傍聴をしました。その時々の活動を計画し、楽しみながら過ごしています。

他にも、メンバーの皆さんと相談しながら女性部の行事への参加や「家の光」の記事を活用した手芸、季節ごとの畑仕事など、月に1回の集まりですがホッとする時間を楽しんでいます。コロナが終息したら、お茶会やおしゃべり会、勉強会などを計画していきたいです。

8月の女性部行事予定表

4日（木）	9：30～	運動会運営委員会
〃	13：30～	本部役員会
5日（金）	13：30～	南支部「ブドウ狩り」
10日（水）	9：30～	支部役員会（南・西）
〃	10：00～	大根支部「廃油せっけん作り」
〃	13：00～	支部役員会（大根）
〃	13：30～	支部役員会（北）
12日（金）	9：30～	支部役員会（東）
〃	13：30～	支部役員会（本町・上）
15日（月）	9：00～	東支部「シトラスリボン配布」
22日（月）	10：30～	いきいきレディース交流会
30日（火）	13：30～	常勤役員と女性部本部役員との意見交換会
31日（水）	9：30～	北支部「ふるさと料理教室」

※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止になる場合があります。お問い合わせは生活福祉課まで。☎72―7661

観光農業

市内で、観光農業がにぎわいを見せている。収穫体験や花畑など、市民はもちろん、市外から訪れた人にも楽しんでもらえる取り組みが充実。新東名高速道路が4月に開通したことも、観光農園の盛り上がりに拍車をかける。

新東名の開通でにぎわいさらに

ブルーベリー質上々 摘み取り園にも力注ぐ

市内で、ブルーベリーの収穫が最盛を迎えている。今年は大玉で甘い実がそろい、品質は上々。ブルーベリー研究会の会員は、じばさんずなどへの出荷や観光摘み取り園の運営に力を注いでいる。

伊藤隆弘会長は、30㌃で約800本を栽培。8月上旬まで開く観光農園は、園内で実を収穫して食べる摘み取り体験の他、来園者が摘んだ実の量り売りにも対応する。その他、市内のスーパーなどに出荷している。

こだわりは、来園者に気持ち良く楽しんでもらえる園にすること。園内は通路を広く用意し、シートを敷いて歩きやすくする他、草刈りや落下した実の掃除を小まめに行い、来園者目線での管理を徹底している。

同会は、摘み取り園を開く会員と、販売を主力とする会員も所属し、さまざまな形で秦野産ブルーベリーの魅力を発信。今年は、新たに園を立ち上げた仲間が増えた。会員同士で、施肥のタイミングや管理しやすい品種などの情報を積極的に交換している。

伊藤会長は「新東名高速道路が開通し、市内の観光農園の需要が今後さらに高まってくると思う。供給を増やすためにもブルーベリーを栽培する仲間を増やしたい」と意気込む。

ブルーベリーの管理に励む伊藤会長

映えるヒマワリ畑 夏の思い出づくりに

青年部と秦野市農業後継者クラブ「秦友会」は、夏を栽培。どちらも、大人のフォトスポットを用意して活動をPRしようと、市内でヒマワリを栽培している。青年部は弘法山展望所付近で、秦友会は田原ふるさと公園の近くでヒマワリを植えた。開花は7月末から8月上旬までがピークになる見込みだ。

秦友会のヒマワリ畑は、7月10日ごろから開花が始まり、黄色い花が訪れた人の目を楽しませている。今後も脇芽から出たつぼみが開花し、7月末まで見頃が続く予定だ。

それぞれの畑の場所は、左記のQRコードから地図を確認できる。

ヒマワリの生育を確認する青年部の小島康浩委員長（11日撮影）

田原ふるさと公園の付近（秦友会）

ヒマワリ畑地図

弘法山展望所（青年部）の付近

トウモロコシを収穫 アクセス良く参加者増

はだの都市農業支援センターが取り組む観光農園事業「はだの農業満喫CLUB」で9日、トウモロコシの収穫体験を開いた。堀西で「ファームスクエア丹沢の森」を営む三武利夫さん、裕介さんが協力。市内外からの参加者27組81人でにぎわった。

体験は新鮮なトウモロコシを1本150円で収穫できることから、人気が高いイベントの一つだ。新東名高速道路の開通で、横浜市などから同ファームへのアクセスが良くなり、参加者が昨年より32人増加した。

参加者は三武さんから、食べ頃のトウモロコシの見分け方やもぎ方を教わった後、2カ所の畑に分かれて収穫を開始した。実が黄色い「ゴールドラッシュ」と白い「雪の妖精」の2品種を収穫。生のまま試食もして、品種ごとの食味の違いを確かめた。

参加者の一人は「新東名高速道路を利用すれば行きやすいと思い、友人家族を誘って初めて参加した。収穫したてのみずみずしいトウモロコシを味わえたので、参加して良かった」と感想を話した。

三武裕介さんは「どのように農産物が育っているかを見てもらうことはとても意味があることだと思う。自分で収穫した野菜のおいしさは格別だと思うので、体感してもらえたら何よりの喜び」と笑顔で話した。

トウモロコシを収穫する参加者

八重桜を低樹高化 イベントの企画も

柳川で農業を通じて地域おこしに取り組む有志団体「フィールド・フォー・シチズン」が、特産の食用八重桜の輪を広げている。県農業技術センターが開発した「樹木の樹体ジョイント仕立て」の技術を初めて八重桜で活用し、2020年から栽培。収穫が本格化する来年以降に向けて、桜の摘み取りイベントなどを計画し、観光資源としても役立てていく考えだ。

ジョイント仕立ては、複数の木を1本につなぐことで早期成園化と低樹高化を実現する技術。10㍍以上になる八重桜の樹高を3～4㍍に抑えられるため、収穫作業を省力化できる。女性や子どもでも摘めるので、収穫体験にもぴったり。柳川地区には、新東名高速道路の新秦野インターチェンジがあるため、人を呼び込むのにうってつけの場所だ。

同団体は、これまで栽培してきた330本の八重桜に加え、新たに遊休農地を整備して今年1月に200本を植えた。4月には、最初に植えた30本から花を収穫。塩漬けに加工し、田んぼで育てた米と一緒におにぎりにして、田植えイベントの参加者に振る舞った。今後、収穫が本格化した際には、市内で八重桜の塩漬けを作る加工グループに提供することも検討している。

9日には、今年植えた苗木の接ぎ木作業に励んだ。5人のメンバーらが、苗木を地面から70㌢の位置で90度に曲げ、木の皮を削ってあらわになった組織を隣の木の組織と重ねて、テープで固定した。

小池勉代表は「特産の食用八重桜を盛り上げることは、地域振興にもつながると信じている。加工グループや市内の小学校とも連携して八重桜を通じた地域おこしができれば」と熱意を燃やす。

八重桜の接ぎ木作業に励む小池代表

小麦の品質を確認する組合員㊧と検査員

小麦607袋出荷

丁寧に品質チェック 努力して適期収穫

JAはだのは5、11の両日、本所で今年産の小麦を検査した。市内の農家で構成する「秦野小麦出荷組合」の組合員が小麦607袋（1袋約30㌔）を出荷し、検査員が品質をチェックした。小麦は、製粉業者を通して市内外のレストランやパン店などで使用される。

検査した小麦は、強力品種「ゆめかおり」と中力品種「さとのそら」。検査員が、形質や色つやなどを1袋ずつ丁寧に確認し、等級を付けた。

同組合は、1法人と6人が所属し、連携して小麦を生産している。毎年、出穂期の3月と収穫前の5月に畑を巡回し、追肥や病害虫防除の時期などを確認している。今年は、雨が多く病害が懸念されたため、6月にも巡回を実施。収穫直前に刈り取り適期を見極められたことから、適期に収穫作業を進めることができ、昨年より多い出荷量となった。

大豆上手にまけたよ

園児栽培スタート

市立北幼稚園の園児64人は13日、菩提の畑で大豆の種まきを体験した。地元農家の小泉貴寛さん、典恵さん夫妻が協力。園児は「上手にまけたよ」「大きくなりますように」と笑顔を見せながら、畑での体験を満喫した。

小泉さん夫妻は、事前に畑を耕して溝を作り、等間隔に目印を付けたロープを用意した。園児は、目印の所に名前を書いた札を立て、小泉さんが提供した大豆「津久井在来」の種を10粒ずつまいて土をかぶせた。今後、草むしりなども体験して、10月にエダマメを収穫する予定だ。

貴寛さんに教わりながら種をまく園児

農薬管理でコンクール

JAはだのは6月22日、市内21戸の農家を巡回し、農薬保管管理コンクールを開いた。農作業安全運動の一環で、農薬の管理意識を高めてもらおうと実施しているもの。県農業技術センターや市、JAの職員が審査員となり、農薬の保管状況を審査した。

審査員は、保管庫にある農薬の種類や使用期限などを一つ一つ取り出してチェック。保管庫の施錠の有無を確認した他、農薬散布時の服装、空容器の処分方法などについても農家から詳しく聞き取った。

参加者は「事故が起こってからでは遅いので、改めて安全への意識を高めることができた。特に農薬の使用時は、近隣の住宅への飛散にも気を付けたい」と話した。

農薬の使用期限をチェックする審査員

足腰を鍛えて フレイル予防

生産組合が健康教室

新田町生産組合は7日、自治会館で健康教室を開いた。組合員6人が、コロナ禍の健康づくりについて学んだ。

講師を務めるJA県厚生連の保健師が「足腰が衰えない生活の工夫～フレイル予防の身体づくり～」と題し、加齢によって心身の活力が低下した状態であるフレイルについて説明。コロナ禍は自宅で過ごす時間が多くなる影響で、筋力が低下しやすく、フレイルに陥る可能性が高くなっていることを伝えた。

参加者は、椅子を使いながら膝を曲げたりかかとを上げたりして、足腰の筋肉を鍛える体操を学んだ。その後、片足立ちやスクワットが組み込まれている「金太郎体操」で体を動かした。

「金太郎体操」をする組合員ら

良質米へ管理徹底 「はるみ」現地検討

JAはだのは8日、鶴巻と東田原の水田で県の水稲奨励品種「はるみ」の現地検討会を開いた。良質な米の生産と安定的な出荷につなげることが狙い。農家の他、県農業技術センターやJAの職員ら35人が参加。夏の栽培管理の情報を共有した他、生育状況を確かめた。

センター職員が、追肥時期の判断の目安を解説。時期によって効果が異なることを説明した他、出穂期を予測するための幼穂長の測定方法を実演した。

今年は高温が続き、胴割れ粒や内白（ないしろ）褐変病による障害粒などが発生しやすいと予想されることから、高温障害の回避方法についても周知。紋枯病や斑点米カメムシ類などの防除方法も説明した。

幼穂長の測定方法を実演するセンター職員㊧

発見 頑張り屋さん No.468

何事も「一意専心」に

八沢の吉岡登詩子（よしおか とし子）さんは、鶴巻で生まれ育ち、幼い頃から家族の見よう見まねで料理や裁縫に親しんできた。高校で家庭科を専攻し、卒業後は洋裁会社に就職。23歳で結婚を機に八沢に移住し、現在は市内の福祉施設に勤務している。趣味は49歳で始めた水墨画で、個展や教室を開く他、上支所に作品を提供している。座右の銘は「一意専心」。何事もやり続けることを心がけて仕事や趣味を充実させながら過ごしている。

八沢の―吉岡（よしおか） 登詩子（とし子）さん（70）

――水墨画を始めたきっかけは？

小学校の担任だった先生のお誘いです。久しぶりに会った際に紹介していただき、先生が開く教室に11年間通いました。その後は独学で水墨画を続けています。

――水墨画の魅力は？

墨をすっている時は、気持ちが安らぎます。今では毎日の習慣になっていて、本を参考にしたり庭に咲いた花を見たりして描いています。

――他の楽しみは？

自宅に遊びに来る息子家族と一緒にごはんを食べることです。作った料理を「おいしい」と食べてくれるのでうれしく思います。すくすくと育つ孫の成長を見ることも楽しみの一つです。

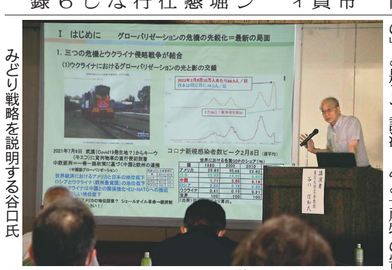
――今後の展望は？

水墨画の楽しさを多くの人と共有していきたいです。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、また個展を再開したいと考えています。

「みどり戦略」学ぶ 市園芸協会が講演会

秦野市園芸協会は6月30日、本所で「みどりの食料システム戦略」をテーマにした講演会を開いた。同日開いた通常総会の記念講演会として開催。会員とJA役職員合わせて63人が出席した。

東京大学名誉教授の谷口信和氏が「みどり戦略の」と題して講演。みどりの食料システム戦略の中心課題は、食料自給率の向上であることを説明した。消費構造が魚介類から肉類に転換し、農畜産物の需要が増大していることを解説。国内での飼料穀物の生産を拡大することで、農地の保全や温暖化対策にもつながることを説いた。さらに、戦略の実現には、環境への負荷の低減と、生産性の向上を両立させることが不可欠であることを伝えた。


みどり戦略を説明する谷口氏

シニア活躍へ

援農ボラセミナー

秦野市生涯現役促進地域連携事業推進協議会（生涯現役フルライフはだの）は6月21日、本所で「援農ボランティアのすすめ」と題した農業入門セミナーを開いた。55歳以上の市民の生きがいづくりに農業を取り入れるとともに、農業の人手不足解消につなげることが目的。シニア世代10人が参加した。

参加者は、はだの都市農業支援センターの職員から市の援農ボランティア制度の説明を受けた。その他、普段からボランティアを依頼している堀山下の髙橋正宏さんと懇談。「女性でもできる仕事はあるのか」「毎日行けなくてもいいのか」など具体的な内容を質問した。セミナー終了後、6人がボランティアに登録した。

髙橋正弘さん㊨と懇談したセミナー

告知板

農作業安全標語を募集

農作業の安全と事故防止を目的に「農作業安全標語」を募集します。

◎募集作品の内容
▽農作業の事故防止に役立つもの▽農業労災保険加入の促進に役立つもの▽農薬の安全使用および保管管理に役立つもの

◎応募資格　組合員またはその家族

◎応募期間　７月26日（火）～８月27日（土）

◎応募方法　作品ごとに住所、氏名を記入して、各支所・支店の窓口に提出してください。※1人3点まで

◎褒賞　特選3点、入選9点

※入賞者には記念品を贈呈し、応募者全員に参加賞を進呈します。

◎結果発表　10月の機関紙「ＪＡはだの」で発表します。

入賞作品は約1年間、ポスターや安全運動看板、カレンダーなどに活用します。

お問い合わせは、はだの都市農業支援センターまで。☎81－7800

囲碁将棋大会を延期

8月2日（火）に開催を予定していた「第26回ＪＡはだの組合員囲碁将棋大会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、11月24日(木)に延期します。ご理解をお願いします。

お問い合わせは生活福祉課まで。☎72－7661

盆用品はセレモニーホールで

ＪＡセレモニーホールはだのは、ちょうちんなどの各種盆用品を取り扱っています。盆の準備に、ぜひご利用ください。葬儀の事前相談も随時、承っています。盆のことから法事、家族葬のことまで、お気軽にご相談ください。

お問い合わせはＪＡセレモニーホールはだのまで。☎83－2727

農業者年金に加入しましょう

農業者年金は、農業の担い手のための公的年金制度です。原則65歳から、一生涯にわたって受け取れる終身年金です。支払った掛け金の全額が社会保険料控除の対象となります。次の要件を満たす方なら、どなたでも加入できます。

◎60歳未満の方

◎年間60日以上農業に従事している方

◎国民年金第1号被保険者（国民年金保険料納付免除者を除く）

お申し込み・お問い合わせは、はだの都市農業支援センターまで。☎81－7800

詐欺にご注意を

県内で地方自治体や警察、銀行協会の関係者などを名乗ったキャッシュカード手交型詐欺が発生していますので、ご注意ください。少しでも「おかしいな」と思った時は、一人で抱え込まず、警察または最寄りの支所・支店にご相談ください。

鶴巻と本町の貸金庫利用を

鶴巻支店と本町支所は、貸金庫の利用者を募集しています。貯金証書・権利証・貴金属などの大切な財産を、盗難や紛失、火災などのトラブルからお守りします。

◇鶴巻支店貸金庫

◎利用時間　午前8時30分～午後4時（平日のみ）

◎年間利用料　1万3200円（税込み）

お問い合わせは鶴巻支店まで。☎77－0840

◇本町支所貸金庫

◎利用時間　午前8時30分～午後9時（平日・休日とも）

◎年間利用料　1万9800円（税込み・組合員価格）、2万3760円（税込み・員外価格）

お問い合わせは本町支所まで。☎81－0019

じばさんずNEWS

【8月のイベント】

新型コロナウイルス感染症対策のため、入店の際はマスクの着用と手指の消毒をお願いします。

☆「ユースマルシェ」６日（土）
青年部の若手農家が、新鮮な野菜を対面販売します。

☆「旬の果物・野菜フェア」７日（日）20日（土）21日（日）27日（土）28日（日）
旬の果物や野菜にスポットを当て、店舗外の特設コーナーで販売します。

☆「おすすめ商品の特売」２日（火）９日（火）16日（火）23日（火）30日（火）
産地間提携を結ぶＪＡの商品など、お薦めの品を特別価格で販売します。

☆「お盆フェア」13日（土）14日（日）
秦野の小菊を中心に、お盆用品を多数取りそろえます。11日（木）～13日（土）には、水菓子・和菓子・お供え菓子も販売します。

☆「豚肉加工商品の日」12日（金）
㈱フリーデンが国産豚を使用したお得な商品を販売します。

☆「たまごの日」毎週月、金曜日
店頭価格から10％引き。「みくるべたまご」は除きます。

☆「米の日」毎週水曜日
店頭価格から10％引き。

☆「肉の日」毎週木曜日と29日（月）
店頭価格から５％引き。

◎８月は休まず営業します。

◎８月31日（水）は棚卸しのため、午後３時に閉店します。

※感染症の影響により、試食イベントは休止しています。他のイベントも変更になることがありますので、ご了承ください。

今月の生産者

名古木の　村上（むらかみ）　勇（いさむ）さん

出荷品目　ジャガイモやミニトマト、インゲンなど年間20品目以上

今年はジャガイモ「キタアカリ」がたくさん収穫できました。よく火を通すとやわらかくホクホクになり、甘みがあっておいしいです。ポテトサラダなどで食べるのがお薦めです。

夏にひんやり ジェラートいかが

Sun's Gelato

じばさんず敷地内に今年４月にオープンした「Sun's Gelato（サンズジェラート）」は、夏にぴったりの冷たいジェラートを販売しています。

種類豊富に用意するジェラート

日替わりで10種類の味を用意しています。県産の「きんたろう牛乳」を使用した「ラッテ」、子どもに人気の「いちごミルク」などの他、「甘夏」「トマト」など秦野産の農産物を使った季節限定のメニューがあります。

※季節のメニューは数量限定ですので、売り切れの場合があります。

ジェラートの価格（税込み）は次の通り。

日替わり10種類　季節メニューも

◎シングル（１種類）　350円
◎ダブル　（２種類）　450円
◎トリプル（３種類）　550円

※シングル、ダブルはカップかコーンを選べます。その他、アイスコーヒーやカフェラテなども販売しています。じばさんずへのお買い物の際に、ぜひご来店ください。

図書室のご案内

本所農業団地センター3階の図書室には、農業をはじめ、料理やガーデニング、健康など、生活に役立つさまざまな本が3000冊以上並んでいます。家の光協会出版の新刊図書も閲覧できます。

どなたでも入室できますので、図書室をぜひご利用ください。

◎貸出日数・冊数　2週間・1人3冊まで

◎開室日　月～金曜日（祝日を除く）

◎開室時間　午前8時30分～午後5時

◎貸し出し・返却　図書室にある専用の用紙に必要事項を記入するだけの簡単な手続きです。

お問い合わせは組織教育課まで。☎81－7714

あの人　この人

キヌガサタケを見つけた北村さん

キヌガサタケを発見

柳川の北村清次さん

柳川の北村清次さんは、自宅の敷地内でキヌガサタケを多数発見した。

キヌガサタケは、白色でカサの表面が細かいレース状になっているのが特徴。数時間でカサがしぼんでしまう事から、観賞できる機会が少ない貴重なキノコだ。

今年になってから増え始めたことに気付いた北村さんは、日々キヌガサタケを観察。移り変わる特徴的な姿を見守った。

北村さんは「突然増えてきたので、大変驚いている。食用キノコのようだが、神秘的な形をしているので、食べずにこのままにしておきたい」と笑顔で話した。

文芸の窓

〈俳句〉（酒井　敏光　選）

飽食を開放されし兜虫　佐藤英美子（南矢名）
月涼し人の歩きも否応なし　森高　由子（渋　沢）
漆黒の甲虫まさぐる山毛欅の蜜　高島美和子（名古木）
持ち寄りの自慢の鍬形相撲かな　吉田　清美（渋　沢）
海色のアンクレットや夏兆す　菊池としえ（菩　提）
甲虫父似の押しやブルドーザー　志賀　明子（千　村）
父の日や足に優しいスニーカー　芦川　松江（八　沢）
咲き誇る紫陽花を打つ雨太し　石原　松枝（渋　沢）
不愉快は愉快の始まり梅雨明ける　石田　陽子（ひばりケ丘）
雨蛙活気づくなり峡の里　高橋　順子（大秦町）
お土産はリュックのなかの兜虫　柳川みち子（栄　町）

杣人の掌を歩かせて大鍬形　選者

〈短歌〉（久保寺　富男　選）

コンコンと叩いてみたり初めての
カボチャの実成をじょうろの先で　八木　実（鶴巻北）

評　丹精の結果として実ったカボチャへの慈しみが伝わってきます。助詞を添削しました。

草むしる腕にむずかる感のして
小蟻見つけぬ老眼確かに　今井　かめ（羽　根）
梅雨空に藍あざやかきブルーベリー
わらべのように摘むは楽しも　石田こずゑ（水神町）
今の時を学生時代に戻せたらと
辞書を片手に脳トレに励む　水落美和江（鶴巻南）
茄子はムシャ胡瓜はパリリをめざしつつ
自家製野菜で挑む柴漬け　細田　富士（千　村）
蒸し暑き夜を庭に出で見れば
白く浮きて見ゆ夕顔の花　安居院輝雄（上大槻）
梅雨明けに庭の水やり朝仕事
鉢の菊へは秋まで続く　伊東　久（渋　沢）
迎え火の明々灯れうすやみを
父母妻の今宵は帰り来む　選者

※選者による添削あり

今月の理事会

7月21日に理事会を開催し、次のことを審議しました。

▽2022年度協同活動顕彰基金表彰規程による表彰について
▽常勤理事の他団体理事等への就任について
▽2023年度（令和5年度）農林業施策・予算要望について
▽高額貸出金の借入申し込みについて

職員人事

かっこ内は旧部署。

◎7月1日付人事異動
◇信用課＝平賀勇亮（西支所）
◇融資課＝大庭拓真（東支所）
◇大根支所＝齋藤健伍（西支所）
◇本町支所＝小泉茉由（信用課）
◇東支所＝川口菜那（融資課）
◇西支所＝豊島花（大根支所）伊藤穂乃香（本町支所）

税務相談日	8月9日（火）午前9時30分～
法務相談日	8月19日（金）午後1時30分～
場所	本町支所

予約制ですので、事前にお電話にてご予約をお願いします。受け付け順に相談時間が決まります。
ご予約は㈱協同コンサルトはだの　☎81―2329

8月5、6日に農機展示会
2年半ぶり全農かながわで

ＪＡグループ神奈川は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた「農業機械展示予約会」を2年半ぶりに開催します。

◎日時　8月5日（金）～6日（土）午前9時～午後4時
◎会場　ＪＡ全農かながわ（平塚市田村）

農業機械・資材メーカーが出店し、最新の農業機械や肥料、農薬、園芸資材を展示します。中古農機販売会は行いません。

当日は、農機担当者が会場でお待ちしています。午前中は駐車場や会場内の混雑が予想されます。密集を避けるために、午後のご来場に協力をお願いします。

会場内では感染症対策のため、マスクの着用・手指消毒・検温の協力をお願いします。会場内での食事・喫煙はできませんので、ご注意ください。なお、感染症の状況により、開催が中止となる場合があります。

お問い合わせは農業機械センターまで。☎81―8394

秦野の農家ご飯

子どもも大人も大好きドライカレー

北支部　桐山（きりやま）　容子（ようこ）さん

■材料（４人分）■

牛豚合いびき肉400㌘、タマネギ80㌘、ニンジン80㌘、セロリ30㌘、ショウガ20㌘、ニンニク１かけ、チキンブイヨン２個、赤ワイン200cc、トマト80㌘、干しブドウ20㌘、パイナップル60㌘、カレー粉小さじ３、無糖ヨーグルト大さじ２、しょうゆ少々、ウスターソース少々、ローリエ１枚、塩小さじ１、こしょう適量、サラダ油大さじ２

〈作り方〉

①タマネギはみじん切りし、フライパンにサラダ油を入れて炒める。きつね色になったら合いびき肉を入れて、色が付くまで炒める。
②みじん切りにしたニンジン、セロリ、ショウガ、ニンニクを①に入れてさらに炒める。
③②にチキンブイヨンを入れ、赤ワインを浸るくらいまで注ぐ。
④粗く切ったトマトと干しブドウ、パイナップル、カレー粉、ヨーグルト、しょうゆ、ウスターソース、ローリエを入れ、塩、こしょうで味を調える。
⑤粉がなくなり、味がなじむまで20～25分弱火で煮込む。

〈ひとことアドバイス〉

孫が大好きなレシピです。材料が多いため、深い味になります。調理はいたって簡単で、炒めて煮込むだけです。一度に多く作って冷凍しておくと便利です。

長寿者に記念品贈呈
ふきいきリフレッシュ支援事業

おめでとうございます。末永くお元気でお過ごしください。

88歳（米寿）
▽本町地区＝遠藤謹（末広町）

77歳（喜寿）
▽東地区＝大塚寛子（東田原）
▽南地区＝相原宏（平沢）
▽北地区＝古谷浪子（戸川）

※自己申告ですので、該当の方は誕生月の前月末までに各支所・支店にご連絡ください。

家の光　今月の新刊

68歳、ひとり暮らし。きょう何食べる？

自分のための料理を愉しむ工夫　大庭英子　著

ベテラン料理研究家が教える「ひとりごはん」を楽しむアイデア。食事作りを楽しむ下ごしらえや、シニアに必要な栄養をたっぷり摂るこつなどを紹介。

定価1650円（税込み）

ごみを出さない気持ちのいい暮らし

山戸ユカ　西村千恵　高砂雅美　渡貫淳子　著

環境問題を考え行動する著者が、ごみを出さないために実践しているマイルールを紹介。野菜は丸ごと食べ切る、買い物には容器を持参するなど自分にできることから始めれば、気持ちのいい毎日が送れる。

定価1650円（税込み）

アトピーっ子の安心ごはん

和食ではじめる体質改善　渡辺雅美　佐藤美津子監・著

保育園の栄養士と小児科医が勧める、子どものアトピー症状を改善させる和食レシピ。だしや素材を生かした和食は、元気な肌をつくる栄養がたっぷり。おかずや汁ものなど多数掲載。

定価1540円（税込み）

農業のユメ育みます
JA農機ハウスローン

応援1 軽トラックの購入にも！
応援2 農業機械の購入にも！
応援3 ハウスの建設にも！
応援4 作業所・倉庫の設置にも！

JAグループ神奈川応援プログラム

利子補給事業
補給率 最長10年 最大 1.0%
JAが取り扱う全ての農業資金（公庫資金を除く）について、最大1.0%（最長10年）の利子補給を行っています。
※貸付条件に合致したすべての方が対象となります。
※商品にはそれぞれ下限利率があり、貸付条件等によって補給率が異なります。
※延滞等が生じた場合、延滞した元金は利子補給対象外になります。
※「JA農機ハウスローン」については、全期間利子補給の対象となります。

保証料助成事業
実質保証料 0円
JAが取り扱う全ての農業資金において、県農業信用基金協会の保証が付された場合の一括前払い保証料を全額助成するもの。一度お支払いいただいた後、全額助成いたします。
※一括前払い以外の方法により支払われた保証料については、助成の対象となりません。

詳しくは各支所・支店または融資課まで　0120-954-093

休日ローン相談会

ご来場の方に記念品を進呈

住宅の新築・リフォーム、住宅ローンのお借り換えやお車のご購入、お子さまの教育資金など、各種ローンのご相談を無料で承っております。どなたでもお気軽にご相談ください。

8月13日(土)
午前9時～午後4時　本所農業団地センター

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、事前予約をお願いいたします

融資課　0120-954-093
またはお近くの支所・支店までお問い合わせください。
ホームページ内「休日ローン相談会」から予約可能！　JAはだの　検索

※感染症などの状況により、中止になる可能性があります。開催状況はJAはだのホームページをご確認ください。

甘さとこくが自慢

ハウスミカン収穫最盛

「平沢小原ハウスみかん組合」が生産するハウスミカンが、収穫の最盛を迎えている。今年は燃油や資材の高騰が大きな打撃となったが、妥協せずに管理を徹底し、品質を維持。組合員は毎年ハウスミカンを楽しみにしている消費者に届けようと、作業に汗を流している。

燃油高騰も品質維持

組合は、2戸が合計60アールのハウスで高品質なミカンを栽培。じばさんずの他、東北や県内の市場などに出荷している。ハウスミカンは、糖度12以上の甘さと、こくのある食味の良さが特徴。リピーターが多く、中元や盆の帰省、彼岸などの贈答品としても人気が高い。

今年は、冬の気温が低かった上に、実が肥大する6月に日照が少なく、燃油を使った温度調整が重要な年となった。組合員は、高騰の影響を大きく受けつつも、良質なミカンを出荷するために、栽培管理に励んできた。

山口一夫組合長は、ハウスミカンの栽培を35年続けている。枝を一本一本フックでつるし、木の内側まで光が入るように調整。色づきの良いミカンに仕上げている。9月末までに、組合で合計30トンの出荷を見込む。

山口組合長は「このまま燃油や資材の高騰が続くと、来年の栽培が難しくなるかもしれない。ぜひハウスミカンをたくさん食べて応援してもらいたい」と話した。

ハウスミカンを収穫する山口組合長

献血お礼にヒマワリ500本

今年も日赤に花き部会が協力

日本赤十字社職員(左)にヒマワリを手渡す三杉さん

花き部会は6月24日、本所で日本赤十字社にヒマワリ500本を渡した。県赤十字血液センターの「はなさか献血キャンペーン」のために用意。県内の献血バスなど10カ所で、秦野産のヒマワリが配られた。

キャンペーンは、献血した人に県産の生花を手渡すもの。感謝を伝えるとともに、花のPRにもつなげている。昨年初めて同部会の協力でヒマワリを配布したところ「華やかなヒマワリがもらえてうれしい」「明るい気持ちになる」と好評だった。

今年も、同部会の3人がヒマワリを用意した。同25、26の両日、横浜市やイオン秦野ショッピングセンターの献血バスなどで配布された。

部会員の三杉武久さんは「ヒマワリは夏らしいイメージがあり、とても人気の花。県内で美しいヒマワリが作られていることを多くの人に知ってもらえれば」と話した。

八重桜に理解を

桜漬け加工部が小学校で授業

千村で桜漬けを作る千村若竹会加工部は11日、市立渋沢小学校で出張授業を行った。岩佐スエ子代表と加藤菊恵さんが講師を務め、5年1組の児童33人に八重桜の塩漬けについて伝えた。

同校は、千村の八重桜について児童に学んでもらおうと塩漬け体験や講演会を行ってきた。「桜漬けの生産者から直接話を聞いてみたい」と多くの児童から声が上がり、総合学習の一環として同部に授業を依頼した。

加藤さんが、八重桜の塩漬けについて説明。1週間ほどで1年分の量を漬け込むことや、食べた人が喜んでくれることがやりがいになっていることを伝えた。

その後、児童からの「桜漬けに合う料理はなんですか」「桜漬けをおいしく作るこつは」などの質問に答えた。

加藤さんが八重桜の塩漬けについて説明

接近!おじゃします (399)

「美味美色」をモットーに

曽屋の
杉崎(すぎさき) 泰子(やすこ)さん(58)

曽屋で露地野菜を栽培する杉崎泰子さんは、鎌倉市で育ち、2008年に秦野市へ移り住んだ。趣味で続けていた家庭菜園から、本格的に野菜の育て方を学ぼうと、19年から「はだの市民農業塾」新規就農コースを受講し、21年3月に就農した。

農業塾では、講師の伊藤総司さんの指導を受けながら2年間野菜を栽培し、技術や農業経営を学んだ。「卒業には一定の利益を上げなければいけないので、多少のことでは諦めない意識が身に付いた。自分なりに考えて生産や販売に励み、いつの間にか農家になる準備ができていた」と振り返る。

現在は、25アールの畑でナスやケール、コリンキーなど年間50品目以上を栽培。「美味美色=見て美しく、食べて美味(おい)しい」をモットーに、多品目を少量ずつ生産している。弘法山のめんようの里で直売し、宅配でも野菜セットを販売。黄や紫のニンジンなど目を引くカラフルな品種を選んで栽培している。

地域の活動にも積極的に協力。山谷生産組合に加入し、農道の整備や、獣害防止フェンスの設置などの作業にも参加した。ベテラン農家と一緒に農地を守る活動に励み、交流を深めている。

杉崎さんは「農業塾は実習から畑探しまでのワンストップサービスを受けられるので、農家を目指す人にはぜひ秦野で学んでほしい。新規就農する仲間が増え、一緒に秦野の農業を盛り上げていければ」と話した。

やえのちゃんぴーなマンの「JAってなに??」

来年は記念すべき60周年

ぴーなマン

8月1日はJAはだのの創立記念日だね。

これまで、JAはだのは創立記念にどんなことをしてきたのかな?

やえのちゃん

毎年の創立記念式に加えて、節目でいろいろな記念事業をしてきたのよ。

1973年には盛大に10周年記念式典を開いたの。これが「農業まつり」の基礎となって、毎年開催のイベントとして定着したのよ。それ以降は記念誌を発行していて、83年には「秦野市農協20年史」、93年には「秦野地方の農と住の記録集」、2003年には「天地の詩」を発行したわ。

13年にも、50周年記念誌を組合員全戸に配布したのよ。

ぴーなマン

そうなんだ。来年は記念すべき60周年だね。みんなでお祝いできたらうれしいな。